

平成29年度 赤ちゃん和小学生のふれあい体験事業 実施報告

1. 趣旨

近年、社会の中で核家族化、少子化が進み、子どもが成長する過程で、自分より小さな子どもや、赤ちゃんに接する体験がないまま、大人になる方が増えています。結婚をして親になった時に、初めて赤ちゃんに接することになりますが、実際に赤ちゃんを目の前にして、どう接して良いか戸惑うことも少なくありません。

市では本事業を、子ども・子育て支援事業計画の施策として位置づけています。児童センターが、地域の親子を募集し、6年生が成長の過程で赤ちゃんとのふれあい、関わることにより、赤ちゃんを身近に感じ、命の尊さに関心を持つ機会とします。



2. 実施要領

小学生	2回のふれあいを通し、赤ちゃんの目覚しい成長、子育ての喜びや大変さを体感し、親への感謝の気持ち、家族との絆の大切さ、また、命の大切さを感じる機会とする。なお、成長を感じることができるよう、春と秋の2回の体験とし、同じ赤ちゃんとのふれあいます。
親	参加する親は、赤ちゃん和小学生とのかかわる姿を通して、わが子への愛情を再確認すると共に、自分の子どもの成長や、将来をイメージします。 事業に参加することで、親になる次世代の教育を支援する、という社会参加、社会貢献に繋がっていると感じ、保護者自身の子育てに対する評価と自己肯定感を高めます。

3. 実施までのスケジュール

日程	実施事項	内容
平成29年3月	実施校担当教諭との打ち合わせ	・概要の説明と実施場所の確認
4月	担当教諭、実施クラス担任と打ち合わせ	・日程、時間、内容、流れの説明と確認 ・役割分担
5月下旬から 6月上旬	1回目実施打ち合わせ	・当日の流れの説明、役割確認
6月	事前学習（おもちゃ等の搬入） ふれあい体験 振り返りの授業の実施	・ねらいに沿って、赤ちゃんについての講話、絵本の朗読 ・人形を使い抱き方の練習とふれあい遊び ・乳幼児親子とふれあい ・担任による振り返りの授業
10月上旬	2回目実施打ち合わせ	・当日の流れの説明、役割確認
10月	事前学習（おもちゃ等の搬入） ふれあい体験 振り返りの授業の実施	・前回の振り返り、配慮事項 ・乳幼児親子とふれあい ・担任による振り返りの授業

4. 開催日時・場所・実施人数

赤ちゃんが安心できる、安全な環境で、赤ちゃんの生活のリズムを考え、機嫌の良い午前中に開催しました。

場 所	1 回目	2 回目	時間	会場	生徒数	親子
新田小学校	6月15日(木) (事前14日)	9月22日(金) (事前21日)	2.3 時限目	2階 多目的中ホール	40名 6-2	36組 74人
八幡小学校	6月14日(水) (事前13日)	10月5日(木) (事前4日)	2.3 時限目	3階 大ホール	37名 6-3	34組 59人
南粕谷小学校	6月21日(水) (事前20日)	9月21日(木) (事前20日)	2.3 時限目	3階 ふれあいルーム	44名 2クラス	29組 50人

5. 内 容

事前学習 (体験前日：5 時限目)

- ① 体験の目的や、ふれあいにあたっての注意事項を聞き、新生児人形のだっこをすることで実際の赤ちゃんの重さを体感します。赤ちゃんの命と真剣に向き合えるような動機付けを行います。また、体験前に赤ちゃんやってみみたいことやお母さんに聞いてみたいことを事前質問用紙に記入してもらい、体験に臨めるようにしました。



- ② 絵本『わたしの赤ちゃん』の朗読



生まれたばかりで紫色の赤ちゃんが、産声を上げて赤くなる場所、へその緒を切って、おっぱいをくわえる場所、お母さんに抱っこされて安心して眠る場所… など

小さな、生まれたままの赤ちゃんの、ありのままの可愛らしさ、愛おしさ、一生懸命に生きる力強さ、命の不思議さを、あたたかな挿絵で伝えました。

- ③ ふれあい遊びの練習

児童が、赤ちゃんにさわって、反応をみながら遊ぶ体験ができるように「ふれあいあそび」を意図的に取り入れています。「いっぽんばしこちょこちょ」を指導員と共に、友だち同士で行い、翌日のふれあい遊びの練習をしました。



④ おもちゃ等の搬入

おもちゃや運動遊具、じゅうたんなど、翌日の体験で使用する物品を、児童センターの車からふれあい体験の会場へ搬入しました。翌日の体験へのイメージをわかせるため、気持ちを高めました。



ふれあい体験当日（2. 3時限目）

●親子、小学生を事前に4つのグループに分け、児童センター指導員がサポートしながらグループごとに親子とふれあいました。

- ① **自由遊び**⇒おもちゃ、運動遊具などで自由に遊ぶ中で、赤ちゃんにふれたり、実際に抱っこさせてもらったりし、楽しい気持ちを親子と共有しました。また、赤ちゃんの保護者に質問をしたり話したりする中で、子育ての楽しいことや大変なこと、親の思いなどについて知ることができました。
- ② **ふれあい遊び・一体感を感じる遊び**⇒事前学習で練習したふれあい遊びをしたり、一緒に体操したり、簡単な集団遊び、絵本の読み聞かせなどをする中で、親子がふれあう様子、赤ちゃんのうれしそうなお表情などに気づく機会となりました。



- ③ **振り返り授業**⇒担任が、ふれあい体験を振り返る授業を行いました。（約30分間）体験を終えて、自分の考えや気持ち（気づいたこと、感じたこと）を感想用紙に記入してもらいました。



6. 質問用紙、感想から（抜粋）

「実際に体験してみてどうでしたか？」という問いに、「思うようにできず難しかった」と14%の生徒が回答しています。

- ・楽しいけど赤ちゃんが怪我したら責任が重い
- ・赤ちゃんのご機嫌を取るのは大変 ・緊張する
- ・走り回って言うことを聞かない ・抱っここの仕方が分からなかった
- ・小さい子とふれあったことがなかったから、最初は何をしていいかわからなかった など

赤ちゃんとお過ごし、大変さと同時に、かわかりかたや赤ちゃんのことが少しわかったようです。命の重さについても感じたことがあったようです。



「赤ちゃんとのふれあい体験をまたしたいですか？」という問いに、119名回答のうち115名（96%）が「はい」と回答しました。

- ・成長して、新しい事ができるようになったところをみたい
- ・笑ってくれるとうれしいから
- ・とても可愛かったし、もっと赤ちゃんについて知りたい など

赤ちゃんの成長を感じ、大変だったけれどかわいかったし楽しかったという体験からの記述が多くありました。



「自分や友達について気づいたこと、感じたこと」

- ・赤ちゃんは好きではなかったがふれあってみたら可愛く好きになってきた
- ・赤ちゃんといると笑顔になってすごく癒される。いつもの私とちがう
- ・自分がどんな赤ちゃんだったか知りたくなった
- ・女子が本当のお母さんみたいだった ・みんなが笑顔になっていた
- ・意外な人が小さい子に優しくしていてびっくりした

「自分と家族・命について思ったこと」

- ・一時間でも大変なのにお母さんは笑顔を絶やさずに赤ちゃんのお世話をしてくれてすごいなと感心しました
- ・私の両親も毎日笑顔で接してくれていたと思います。命を育てていくのはとても難しいし大変だと思うけれど、私が将来赤ちゃんを産んだら大切に育てていきたいです
- ・私が抱っこすると泣いてしまうのにお母さんの所に行くとすぐに泣き止むのでそれだけお母さんが好きで愛情を注がれているんだと思いました
- ・僕もこんなふうに家族として大切にされていると気づいたので家族に感謝したい
- ・赤ちゃんのお母さんがとても幸せそうにニコニコ笑っていたのを見て、私のお母さんも私が生まれた時こんな顔をしていたのかなと思いました
- ・家族が今日のお母さんのように自分が小さい時から大事に世話をしてくれた。ふれあい体験をして「親って大変だな」と思いました



参加保護者の感想

- どうやって遊んでいいかわからなそうにしていたのですが、それでもがんばって息子にかかわろうとしてくれた姿がとても嬉しかったです
- 嫌な顔一つせず最後まで子どもに付き合ってくれてありがとうございました
- 普段、小学生とふれあえないのでとてもよい体験になり、子どもの成長を感じる良い時間になりました
- 「赤ちゃんを産むのってどれくらい痛いんですか？」と質問され、久しぶりに陣痛の事を思い出しました。同時に初めて赤ちゃんを抱っこした時の感動を思い出しました。初心を忘れずに子育てを頑張ろうと改めて思いました
- 今までの子育てを振り返る事ができて私自身にとっても嬉しい体験になりました



7. まとめ

2回の体験から、小学生は赤ちゃんの可愛さを実感し小さな命を思いやる姿が見られました。そして、子育ての大変さを間近に見たり、聞いたりすることで、自分が大切に育てられてきたと感じ、家族への感謝の気持ち、命の大切さを学ぶ体験ができたように思います。

参加した保護者は、自身の子育てを振り返り、わが子の成長を楽しみに感じていました。このことは、自身のこれからの子育てにいい影響を与えていくことと思います。また、赤ちゃんも、小学生のお兄さん、お姉さんに遊んでもらうことで、人への興味関心がさらに増し、これからの人間形成に重要な経験となったことと思います。

